横顔

上田進

青空文庫

1

壊滅した——と言う
そうかも知れないと思う
健在だ——と言う
そうかも知れないと思う
地下に追込められたものは
益々深く地下に潜り込んだのだ
俺達にはてんで見当がつかなくなったのだ

2

汽笛（ボー）の白い蒸気が
灰色の空にちぎれ飛んだ
午前六時の川風が
雪交りの雨を赤煉瓦に叩きつけ
脂染（あぶらじ）みた硝子窓をゆすぶった
肩をすぼめた俺達の行列が
鉄門の外にまだ長くつづいていた

3

泥んこの通路（みち）がやけに癪に触る
癪に触るから大股で歩いて行く
口の開いた護謨長（ゴムなが）の鼻先に
ビラが落ちて来た
顔を上げると頭の上に
赤や黄のビラが舞っていた
風が一吹き強く吹いて
霙（みぞれ）の中にビラが一段と激しく散った
むこうを見た
厚いコンクリの塀が立ってるだけだった

4

何処から舞って来たのか？
どんな人が撒いたのか？
俺達は知らなかった
「俺達の中に居る人かも知れぬ」
——だが、たしかに、今、此の手に
俺達はビラを握っている
日本共産党のビラを！
これは夢じゃない
そら、ひっぱたかれたら痛かろうが？
本当だ！

5

衣兜（かくし）じゃ駄目だ

肌へつけときな
よし……いやもう一度見て
左の下の隅の五つの文字
見つめていると
レーニンの顔になって
笑い出して
躍り出して
ぼやけた……
いけねえ、涙で鼻がつまって

6

ピチャピチャ……急に足音が高くなり
行列が騒がしくなった
俺達は胸を張って工場に入ってった
俺達はプロレタリアだぜ！

7

眼の底に染みついた
頭の心に焼きついた
この五つの文字――それが
胸の中を引掻きむしる

8

お出でなすったな、監督さん
パイ公連れてさ。
出すもんかい、
これあ俺達の御守だ。
……
へん、ざまア見やがれだ！

9

俺達は見た
俺達は知った
俺達の党は健在だ！
俺達はやけに嬉しいんだ
（おお、その胸に抱かれているのは
地下に健在な党がチラリと見せた
小さい四角な、赤い横顔（シルーエット）！）

（一九三〇年三月六日作　『戦旗』同年六月号に発表
一九三一年八月戦旗社刊『一九三一年版日本プロレタリア詩集』を底本）

青空文庫情報

底本：「日本プロレタリア文学集・39　プロレタリア詩集（二）」
新日本出版社
　　1987（昭和62）年6月30日初版
底本の親本：「一九三一年版日本プロレタリア詩集」戦旗社
　　1931（昭和6）年8月刊
初出：「戦旗」
　　1930（昭和5）年6月号
※表題は底本では、「横顔《シルーエット》」となっています。
入力：坂本真一
校正：フクポー
2018年1月27日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

横顔

上田進

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/